

飯島町都市計画マスタープラン及び飯島町立地適正化計画策定委員会（第4回）

会 議 録

1. 開催日時 令和7年8月25日（月） 13:30～15:30

2. 会 場 飯島町役場 2階 防災集会室

3. 出席者

番号	区 分	部 門	団 体 名 等	氏 名	備 考	出欠
1	学識経験者	都市計画	信州大学工学部 水環境・土木工学科 助教	森本 瑛士	副委員長	欠
2	公募住民	町民	公募町民	五十鈴川 明		欠
3	関係団体	区長	飯島町四区連絡協議会	久保田 英一		出
4	関係団体	医療機関	町内医師・歯科医師・薬剤師	野々村 邦夫		出
5	関係団体	福祉団体	飯島町社会福祉協議会 事務局次長	酒井 武志		出
6	関係団体	教育機関	飯島町教育委員会 教育委員	竹内 榮一		出
7	関係団体	公共交通	地域循環バス運行事業者 セブン自動車有限会社	熊谷 良一		欠
8	関係団体	子育て支援	飯島町地域子育て支援センター 所長	伊澤 美恵	R7.7.1～	出
9	関係団体	子育て支援	子育て世代町民	神座 想	R7.7.1～	出
10	関係団体	子育て支援	子育て世代町民	堀内 恵未	R7.7.1～	出
11	関係団体	農業施策	飯島町農業経営者会議 会長	北澤 恒男		欠
12	関係団体	経済施策	飯島町商工会 会長	野村 肇		出
13	関係団体	建築施策	長野県建築士会上伊那支部 監事・顧問	小林 義美	委員長	出
14	関係団体	不動産施策	伊南不動産組合 飯島地区担当	下平 和宏		出
15	行政機関	長野県	伊那建設事務所 所長	川上 学		出

事務局

番号	所 属	氏 名	備 考	出欠
1	建設水道課長	片桐 雅之		出
2	建設水道課 都市計画係長	宮下 純哉		出
3	建設水道課 都市計画係 主査	竹沢 歩		欠
4	建設水道課 都市計画係 主査	三輪 翼		出

4. 次 第

1. 開会 (進行：片桐課長)
2. あいさつ
3. 協議事項 (進行：小林委員長)
 - (1) 前回の振り返り . . . 【資料1】【資料4】
 - (2) 立地適正化計画の検討について . . . 【資料2】
 - (3) 都市計画マスタープランの検討について . . . 【資料3】
4. その他
5. 閉会

5. 配布資料

- ・次第
- ・委員会名簿
- ・策定委員会要綱
- ・【資料1】策定委員会 会議資料 <前回の振り返り>
- ・【資料2】飯島町立地適正化計画(案) <第7章 数値目標と運用管理方法>
- ・居住誘導区域内の人口密度設定の検討過程
- ・【資料3】飯島町都市計画マスタープラン(案) <第3章 地区別構想・第4章 計画の実現に向けて>
- ・【資料4】第4回策定委員会への質問意見及び回答

6. 議事

1. 開会 片桐課長
2. あいさつ 小林委員長
3. 協議事項
 - (1) 前回の振り返り 資料1、資料4に基づき、宮下係長より説明
 - 小林委員長 ご質問等はあるか。
 - 野々村委員 ①現行の都市計画マスタープランの振り返りについて、どのように行い、どのように見直しを行うことにしたのか。作成したままでは意味がなく、チェックが必要である。
 - ②都市計画マスタープラン及び立地適正化計画の策定に際して、飯島町の内側・外側の両面からの視点は非常に大事であると思う。ただし、町のことをよりよく知るためには、町に実際に住むことが一つの良い方法ではないかと思う。改めて、コンサルタントの方が飯島町に住むということがなぜ実現しなかったのかお聞きしたい。
 - ③資料1において、20年後に今回誘導施設に設定する施設(機能)を維持していくと示されている。私自身の場合、20年後だと93歳である。その時まで働けという意味か。また、七久保診療所については、20年後も空白のままということか。
 - ④資料4-4において、「広域的な地域医療体制の確保対策に取り組んでおり」と記載があるが、医師の数を増やしていくことが重要である。取り組んでいるという言葉は良い言葉ではあるが、問題は中身である。実際にどのようなことに取り組んでいるのかを聞きたい。「希望し」や「期待される」などの文章では、ただの作文になってしまう。

	⑤ワークショップ等において町民の意見を聞き、今後民生委員による訪問の機会も活用していきたいとのことであるが、本業務におけるワークショップへの参加人数はどのくらいであるのか教えていただきたい。
事務局	①現行の都市計画マスタープランの評価は、前回（第3回委員会）資料の【資料3】の11ページ～14ページにて行っている。併せて、同時進行で庁内でも検討を行っているため、適切に評価を行ったうえで、改訂をしていきたいと考えている。
受託者	②本日伺っている3名を含め、弊社では長野県中の自治体の業務をお手伝いさせていただいている。近隣市町村では、現在、中川村、松川町、高森町の都市計画マスタープランや立地適正化計画の策定のお手伝いをさせていただいている。その他、都市計画系・防災系・農業系の業務にも携わっている。そのため、実際に住むなど、飯島町にだけ特化するということは難しいのが現状である。3名のうち2名が伊那市、1名が駒ヶ根市に住んでいる。飯島町の直近に住んでいることから、内と外の両方の視点を持ちつつ、細かい町内の状況については委員会の中で各委員からご指摘を行っていただくことによって対応していきたいと考えている。
事務局	③誘導施設については、居住地の近隣に都市機能が集約していることが魅力の一つになるという考えから、現在ある誘導施設とした機能分類の維持を目指していくということであり、個々の皆さんの営業活動を維持していくということではない。 ④医師の確保の件については、ご意見を担当課や理事者に伝えていきたい。 ⑤昨年8月に実施したワークショップには、1日目（8/17（土））は26名、2日目（8/22（木））は25名、併せて51名の方に参加いただいた。参加しやすい日時を考慮して実施した。

（2）立地適正化計画の検討について

資料2に基づき、宮下係長より説明

小林委員長	ご質問等はあるか。
野々村委員	目標値を設定した後に、どのように実現をしていくのが重要である。目標値をクリアしていくために必要な事項についてはどのように考えているのか。
事務局	前回（第3回委員会）資料の【資料2】の第5章にて具体的施策の検討を行っている。この中で、計画を実現させていくために必要な手段や事業等について示している。記載内容については、庁内でも検討を行っている最中である。

（3）都市計画マスタープランの検討について

資料3に基づき、宮下係長より説明

小林委員長	ご質問等はあるか。
野々村委員	説明を聞いていて、ワクワク感がない。町民を巻き込んだ危機意識がないように感じる。先程説明があったワークショップの参加人数も51人と多くはない。少ないと感じる。町の取り組みだけでなく、参加しない町民にも問題がある。町民の多くは町外に買い物に行っており、そういった現状の中では、町内に大きなテナントを誘致するのは無理である。町民自らが自らの首を絞めているように感じる。 都市計画マスタープランの策定に関しても、町民に関心があるように感じられない。町職員が直接話を聞きに行ったり、電話するなどして、「町について思うこと」や「どんな町にしたいか」、「どのようにしていけばよいと思うか」といったことを聞いていくのも一つの方法である。町職員と町民とのつながりや信頼も生まれるのではないか。行動を起こしていかないと、計画を策定しても実現は難しいのではないか。

	素案を作成していくにあたっては、次の策定委員会でいきなり素案が出されるのではなく、過程を示した方が良いのではないか。また、コンサルタントへの業務委託料も決して安くはない。町自身や町民自身で資料が収集できれば、コンサルタントに業務委託を行わなくても、計画策定ができるのではないか。お金をかけた作文ではつまらない。
事務局	これまでに素案として示している資料に足りないところがあれば、追加していきたい。希望をもってまちづくりに取り組んでいる若者も多くいる。現状ありきではなく、必要な声は取り入れていきたい。 次回の策定委員会での素案の協議に向けては、書面会議等で何回かやり取りを行いつつ、内容を詰めていくということも検討していきたい。
小林委員長	策定委員会の回数は5回ということになっている。場合によっては、回数を増やすことの検討を行っていただきたい。 住民意識の向上は私自身も重要であると思う。
神座委員	前回の委員会の際に発言した「目指すべきまちの姿」(第3回委員会【資料3】19ページ)について、「つながりと活気で息づく、みんなでつくる持続可能でコンパクトなまち飯島」のままで変更はないのか。
事務局	現段階では変更はないが、全体を編纂し、次回の策定委員会までには柔軟に対応していきたい。
神座委員	東京から移住し、子どもを育てている身としては、野々村委員からも意見があったように、計画書を読んでワクワクしないというのは大きな視点であると思う。ハード面に関しては「ワクワク」より「安心・安全」「住みやすさ」に重きが行くかとは思いますが、20年後に飯島町に住んでいたいという魅力あるまちになっていくんだという期待感が大切であると思う。「持続可能でコンパクトなまち飯島」になることにより、活気が息づいていく様子や人と人とのつながりがイメージできない。ハード面として、ワクワク感や期待感が感じとれるものが必要であると感じる。 また、資料3の第4章(21ページ)にソフト面との連携も記載されているが、ハード面とソフト面の計画が合わさって進行していくほうがよりまとまった魅力あるものになるのではないか。ハード面とソフト面の連携の考え方についてお聞きしたい。
事務局	人口減少という現実がある中で、多くの課題があると思っている。空き家を活用した取り組みや移住者が多く来ているということが計画の中に見えるようにしていきたい。例えば「空き家」で考えると、空き家自体の「ハード面」とそれに対する移住支援のような「ソフト面」の取り組みがある。そのような観点を踏まえつつ、庁内全体で検討を行っていきたい。
神座委員	都市計画マスタープランはハード面の計画で、これとは別にソフト面の計画があるということか。それともハード面とソフト面の両方を兼ね備えた計画となるのか。
事務局	都市計画マスタープランはハード面とソフト面の両方を兼ね備えた計画となる。イメージ図は前回資料の2ページに示しているとおり、都市計画マスタープランは都市計画分野の最上位の計画となる。それと連携して、各部門の具体的な計画があるという形になる。
神座委員	ソフト面をメインで考える役場内の部署はどこになるのか。
受託者	前回資料2ページの体系図をご覧ください。図の一番上に示している「飯島町総合計画」は飯島町が行政を行っていくうえで最上位の計画である。この計画の中

	には、都市計画分野の他に、子育て・高齢者福祉・観光といった全ての事柄について、ハード面もソフト面も記載されており、町の将来を示す計画といえる。今回はこの飯島町総合計画の中のうち、都市計画分野の基本的な方針を示したものが都市計画マスタープランになる。これは都市計画法にも記載がある。県が作成する区域マスタープラン等も含め、様々な計画が複層的にあることによって都市計画が運用されている。また、立地適正化計画は都市計画マスタープランの高度化版という位置づけである。都市計画分野の中でも、土地利用・コンパクトなまちづくり・公共交通等についてより詳細に検討した計画である。これらを受けて、より詳細な個別計画があるという建付けになっている。 また、目指すべきまちの姿については、前回資料 20 ページに「5 町民・事業者・行政がみんなで協働してまちを築きあげる（参画）」という文言を入れている。行政だけでなく、町民から発議いただくようなことも非常に大切であると考えている。そのような考え方の中で、都市計画マスタープランで方向性を示し、立地適正化計画で持続可能なまちを示していくにあたり、どうすれば飯島町が生き残っていけるのかということを行政・町民のみんなで考え、一緒につくっていくことが「まちづくり」であると考えている。
神座委員	子育てを 20 年後も飯島町でしたいと思えるような都市計画マスタープランにしてほしい。都市計画マスタープランに連携して、個別計画が作成されていくことになると思うが、都市計画マスタープランと同じ熱量のハード・ソフト計画があってもよいのではないかと思う。
事務局	行政の中でも部門が多岐にわたっている。横の連携をしっかりと行い、ハード面とソフト面の取り組みを引き続き行っていきたい。
受託者	参考例として、南箕輪村では「むらづくり委員会」を住民主導で実施している。これは定期的に開催され、様々なことが話し合われている。ぜひ、飯島町でもこのような住民発議を行っていただければ、様々な検討ができるのではないかと思う。
野々村委員	人口は減っていくことが予想されているが、増やす必要はないのではないかと思う。江戸時代は今よりも人口が少ない。歩いて暮らせるまちづくりという方針は悪くないと思う。
事務局	歩いて暮らせるまちづくりは今注目されており、伊那市では伊那北駅～伊那市駅間でそのような取り組みが行われている。魅力的な町になるように、近隣市町村の取り組みにも着目しながら、ご意見として伺いたい。
堀内委員	子育て世帯として飯島町に住んでいて、便利で施設が集約されたまちも良いと思うが、数ある自治体の中から飯島町を選ぶ移住者は、現状のような環境を望んで来た方もいると思う。人口が減少していく中で、町内全域を整備していくことは難しいと思うが、立地適正化計画の居住誘導区域は飯島地区と七久保地区以外の地区にも設定しても良いのではないかと思う。例えば、コロナ渦には保育園が休園になったが、子どもは自宅横の田畑で遊ぶなどしていたことで、閉塞的な環境下ではなかった。こういった経験ができる環境があることは飯島町の良いところではないかと思い、必ずしも集約させていくことだけが飯島町らしいわけではないのではないかと感じる。
事務局	ご意見として伺う。
小林委員長	最近、私の地区に移住者されてきた方がおり、なぜ飯島町を選ばれたのか理由をき

いたところ、「自然が良かったから」と答えられていた。飯島町の自然環境を大事にした上での計画策定が重要ではないかと感じた。

4. その他

小林委員長 全体を通じてご質問等はあるか。
委員 なし。

5. 閉会

片桐課長

7. 会議状況



開会あいさつ



委員長あいさつ



事務局より説明



会議の様子①



会議の様子②



会議の様子③